

令和7年7月30日（水曜日）

余韻を残す美と感性

日報大賞



盛岡二高3年
柴垣 雙乃
2年連続の大賞。集大成となり
うれしい。気合を入れて一文字一文字丁寧に、一カ月かけた作品。焦らず落着いて仕上げるのが、書道から学んだ大切なことを忘れずに留めていきたい。

できた。黒の紙に金泥墨で文字を印象つけた。特に「さんずい」の形に自信がある。「知過必改、得能莫忘」の意味に感銘を受けた。書道から学んだ大切なことを忘れずに留めていきたい。

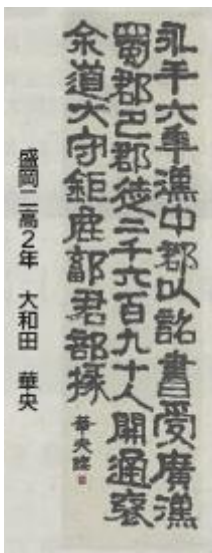


秀逸賞

高校書展は、24校（前年比1校減）から122点（同5点増）の応募があった。内訳は漢字102点、かな5点、漢字かな交じり書（近代）詩15点。日報大賞には、柴垣双乃さん（盛岡二高3年）、及川結月さん（盛岡三高3年）、日下恋晴さん（花巻南高3年）の3人が選ばれた。

柴垣さんは、篆書十文字の臨書。起伏を許さない小篆を多字数でまとめた尊い作品。及川さんは、楊岷の臨書。細字ながらゆったりとした余韻の残る豊かな作品。日下さんは、王羲之の臨書。余白の工夫も細部までされ力強い線と連綿で見応えある作品と評価された。

優秀賞は5点、秀逸賞は15点、入選は40点選ばれた。



優秀賞



（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。